

『「助産師」が行う人の誕生を題材にした「いのちの授業」』



「赤ちゃん」は、「伸びゆく日本」の希望の光！！



3月9日（木）、10時50分～12時00分、指導者として上智大学 総合人間科学部看護学科/助産学専攻 助教 光武智美 先生を招聘し、卒業を間近に控えた3年生を対象に「胎児人形」を使って「いのちの授業」を実施しました。生命尊重の精神を養い、人権感覚の育成を育むとともに、近い将来、親になることを意識できる内容のお話をたくさん伺えました。

赤ちゃん人形を使った体験はよく行われますが、胎児人形を使った授業は県内でも初めてだと思います。本校では、毎年、「赤ちゃんふれあい」体験を実施し、赤ちゃんの肌のぬくもりや笑顔、泣き顔等から、また、母親からの話を聞くことにより生命を尊重したり、豊かな心を育んだりする学習を行ってきました。

今回はさらに進めて、母親の体の中にいるときから、人の命はスタートしているということを学び、より深く「いのち」というものを考える機会にしたいと考えました。3年生にとっては、入学してから様々な「命の学習」（生命誕生に関する講演会、「赤ちゃんふれあい」体験、「性に関する教育」等）を行ってきましたが、これらの取組の最終回となりました。

なお、当日の学校外からの視察者として、県教育局の先生、元埼玉県教育委員会委員長の高橋史朗先生、元埼玉県教育委員会教育長職務代理者の志賀周子先生、滑川町教育委員、近隣小中学校の養護教諭、町内在住埼玉県家庭教育アドバイザーの方々がいらっしゃいました。



